

若い専門家たちと先人の知恵で、水問題の解決へ。

ヨハニス・デ・レーケ・プロジェクトと知識プロジェクト

ヨハニス・デ・レーケと、日本とオランダの新たな水の担い手たち（2026年～）

テーマ別プロジェクト「ヨハニス・デ・レーケ」は、2023年12月6日、アムステルフェーンのゾルフリート墓地において、駐日・駐オランダ日本大使館の元大使 H. Minami 氏の出席のもと、開会式とともに開始されました。

本プロジェクトの主な目的は、より多くの若者、そして日本とオランダの専門家・研究者がヨハニス・デ・レーケの遺産と知恵を探究し、それらを未来へつなげることを促し、刺激することです。

プロジェクト・テーマ

過去の水管理の知恵と、現在そして未来を担う若い専門家たちを結びつけ、日本とオランダの水問題に対する新たな解決策を探ります。

Stichting Blauwe Lijn

kvk: 73413542 ANBI status
secretariaat: Nieuweweg 1, 3251 AS Stellendam
info@stichtingblauwelijn.nl www.stichtingblauwelijn.nl
rekeningnummer: NL14ABNA0863472095

ヨハニス・デ・レーケ

ヨハニス・デ・レーケは1842年12月5日、ゼーラント州ノールト＝ベールフェラント島のコレインスプラートに生まれ、1913年1月20日に亡くなりました。アムステルフェーンのゾルフリート墓地に埋葬されています。

彼は、19世紀の日本における近代的な水管理の精神的な父とみなすことができます。30年以上にわたり、日本で技師として、のちには次官として活動しました。革新的な治水・水工技術によって日本の河川を整備し、水の安全に関して日本の天皇にも助言しました。

歴史上最も著名な「水の達人」の一人であり、「日本のオランダ人水管理技術者たち」と呼ばれた一群の中心人物として、現在も世界の若者や水の専門家に影響を与えています。彼の知識と生涯の物語は、現在そして未来の水問題に取り組むうえで、今なお大きな意味を持っています。

ヨハニス・デ・レーケ・プロジェクト

「ヨハニス・デ・レーケ・プロジェクト」は、Stichting Blauwe Lijn が2023年から開始した、複数年にわたる国際的な知識・教育プログラムです。オランダの水工技師ヨハニス・デ・レーケ（1842-1913）の遺産と教訓に改めて光を当て、それらをオランダと日本の現代のデルタ地域の課題と明確に結びつけます。

目的は、日本とオランダの大学を研究交流のためにつなぎ、長期的な国際共同研究プログラムを実現することです。また、2027年には、ヨハニス・デ・レーケと、日本とオランダの新たな水の担い手たちについての書籍を刊行することを目指します。

知識プロジェクト

「日本とオランダの新たな水の達人」知識プロジェクトは、長期的なヨハニス・デ・レーケ・プログラム（2023年～）の一部です。オランダ人技師ヨハニス・デ・レーケの遺産に着想を得て、水管理、ランドスケープデザイン、デルタ・イノベーションの分野で、日本とオランダの持続可能で長期的な協力関係を築くことを目指します。

2026年には何が行われるのか？

2026年は、TU Delft（デルフト工科大学）の学生たちとともに、日本とオランダで具体的な活動を展開する国際プログラムの本格的なスタートの年となります。

デルフト（TU Delft – 教育・デザイン）

- ・オランダと日本の学生・研究者の交流
- ・国際的な学生グループによるプログラムのキックオフ
- ・水管理とランドスケープ・アーキテクチャを組み合わせた学際的なデザイン・スタジオ
- ・デルタ地域（オランダ・日本）のためのデザイン提案の開発

日本（フィールドワーク・国際交流）

- ・河川管理、文化、ランドスケープに関する日本のアプローチから学ぶ
- ・木曽川流域など、日本のデルタ地域でのスタディーツアーとワークショップ
- ・現地調査、フィールド訪問、日本の大学との協働
- ・学術的・文化的交流の強化

ゼーラント州・南西デルタ（実践・社会とのつながり）

- ・Delta Climate Center（DCC）：専門家・学生とのワークショップと知識交流
- ・気候適応とデルタ・イノベーションに関する発表
- ・Watersnoodmuseum（オウウェルケルク、ゼーラント）：一般向け発表と振り返りのセッション
- ・1953年の洪水という歴史的出来事を、将来の水問題と結びつける
- ・市民、学生、専門家の参加

これらの活動は、教育・研究・市民参加を組み合わせ、理論をデルタ地域の現実の課題につなげます。

アプローチ

本プログラム（2026年～）は、以下の活動で構成されます。

- ・国際ワークショップとデザイン・スタジオ
- ・フィールドトリップと学術交流
- ・共同研究と博士課程（PhD）での協働
- ・公開イベント、展覧会、知識共有

学生と研究者は、日本とオランダの双方における実際の事例を対象として、気候適応、水の安全、エコロジカル・デザインを中心に取り組みます。

長期的な目標

- ・文化と遺産を含む統合的なデザイン手法により、学際的な視点から、それぞれの水問題の状況に対する理解を深める
- ・日本とオランダの構造的な協力関係に貢献する
- ・持続的な国際知識ネットワークの形成に貢献する
- ・過去・現在・未来の水に関する専門知識をつなぐ
- ・デルタ地域の課題に対する革新的な解決策を開発する
- ・新しい世代の「水の達人」を育成する
- ・ヨハニス・デ・レーケと水の担い手たち、そして日本とオランダの新たな水の担い手たちの物語について、日本人・オランダ人の作家やアーティストとともにインスピレーション・ブックを制作する

遺産、教育、イノベーションを結びつけることで、Stichting Blauwe Lijn は過去から得られた知識を、世界、とりわけ日本とオランダの強靱な水の未来を形づくるために積極的に活用します。

Stichting Blauwe Lijn は、日本とオランダ双方の大学、学生、研究者、政府、地域パートナーをつなぎ、知識を交換し、未来の水問題に対する解決策を共同で創出するコネクターとして機能します。

付録1 パートナー

プロジェクトの取り組み

- ・ TU Delft
- ・ Prof. dr. Fransje Hooimeijer
- ・ Dr. Luca Iuorio
- ・ Ir. Taichi Fujii
- ・ Stichting Blauwe Lijn
- ・ ir. Leo van Gelder
- ・ ing. Oswald Lagendijk
- ・ drs. Yuka Yoshida
- ・ drs. Karen van Burg
- ・ ir. Henk Jan Verhagen
- ・ ing. Wout de Vries
- ・ Prof. Dr. ir. Bas Jonkman
- ・ デ・レーケ家：Helenus (Peer) de Rijke、Juliette de Rijke

日本のパートナー

- ・ 岐阜大学
- ・ Prof. Dr. Demura
- ・ 名古屋市立大学
- ・ Martiko Mentani（翻訳・ガイド）
- ・ Drs. Taichi Fujii
- ・ Drs. Richard de Boer（Universal Cruise Osaka）

日本の大学

- ・ 名古屋市立大学
- ・ 岐阜大学

オランダで関与する専門家

- ・ Ir. Koos Wieriks
- ・ Prof. Dr. Jan Stuip

付録1 パートナー（続き）

- ・ Drs. Vincent Harmsen (PhD)
- ・ Ria Geluk（Watersnoodmuseum 創設者）

遺産・水関連機関・博物館・政府

- ・ Zeeuws Archief（ゼーラント文書館）
- ・ Director Dr. Anya Luscombe
- ・ Watersnoodmuseum
- ・ Prof. dr. Barbara Oomen

推薦委員会

- ・ Mr. ir. Jan Hendrik Dronkers

関連機関

- ・ Delta Climate Centre
- ・ Prof. dr. Albert Klein Tank
- ・ ゼーラント州
- ・ Drs. Aline Kok
- ・ Mr. Erik van Bostelen
- ・ オランダ文化遺産省
- ・ Gert Jan de Boer
- ・ Jean-Paul Corten

付録2 活動・プロジェクト概要

完了した活動

- ・ゾルフリート墓地（アムステルフェーン）における「ヨハニス・デ・レーケの年」の開始
- ・Stichting Blauwe Lijn 第1回記念イベント（2024年1月17日）での発表
- ・Zeeland magazine 掲載エッセイ「Zeeuwse watermanager Johannis de Rijke nog altijd voorbeeldig voor Nederland」（著：Johan Sturm）
- ・ジャーナリスト Sam Matey による The Weekly Anthropocene 掲載エッセイ
- ・オランダ放送局TBSによる、Hollandsche IJssel のフィールドトリップおよびコレインスプラート訪問時のテレビ収録
- ・Digital Tresor および Zeeuws Archief と連携した歴史資料の収集・アーカイブ
- ・ノールト＝ペーフェラントでの一般参加型イベント（文化フェア、PeeRockフェスティバルを含む）
- ・岐阜大学 Prof. Dr. Demura によるロッテルダム応用科学大学での講演
- ・Demura 氏の科学論文の翻訳
- ・ヨハニス・デ・レーケに関するポッドキャスト・シリーズ
- ・Waterrijke Zeeland フィールドエクスカージョン
- ・19世紀に日本へ渡った4人のオランダ人水管理技術者を扱う「Waterfuture game」—その一人がヨハニス・デ・レーケ

進行中の活動

- ・水問題に関連する日蘭の知識プロジェクトのインベントリー作成
- ・国際プログラム「日本とオランダの新たな水の担い手たち」—木曾川デルタと南西デルタを中心に展開
- ・学術支援のための Blue Dutch Japanese Helpline の開発
- ・『ヨハニス・デ・レーケと、日本とオランダの新たな水の担い手たち』インスピレーション・ブックの制作

ヨハニス・デ・レーケ・プロジェクト 2026

ヨハニス・デ・レーケと、日本とオランダの新たな水の担い手たち

主な協力機関

- ・ TU Delft（デルフト工科大学）
- ・ Stichting Blauwe Lijn
- ・ 名古屋市立大学
- ・ 岐阜大学
- ・ Universal Cruise
- ・ Zeeuws Archief
- ・ Watersnoodmuseum
- ・ Rotterdam University of Applied Sciences
- ・ Delta Climate Center
- ・ Rijksdienst voor het Cultureel Erfgoed（オランダ文化遺産局）
- ・ Rijkswaterstaat
- ・ IGMPR – Imagining Heritage Culture
- ・ University College Roosevelt
- ・ CE Medical Logistics
- ・ MLIT – 国土交通省（日本）

連絡先

Stichting Blauwe Lijn
secretariaat: Nieuweweg 1, 3251 AS Stellendam
info@stichtingblauwelijn.nl
www.stichtingblauwelijn.nl
kvk: 73413542
rekeningnummer: NL14ABNA0863472095

日本語訳版

本PDFは、提供された8ページの英語資料を基に、日本語版として構成したものです。